

## 高等学校 芸術科（美術） 学習指導案

指導者 森長 俊六

- 日時** 平成 29 年 10 月 14 日(土) 第 2 限 10:35～11:25
- 場所** 美術教室
- 学年・組** 高等学校 I 年 選択ア組 29 人 (男子 18 人 女子 11 人)
- 題材** 県総体のバッジデザイン
- 目標**
1. マークやロゴが持つ力に関心を持つ。(美術への関心・意欲・態度)
  2. 使う目的や用途に応じたデザインができる。(発想や構想の能力)
  3. 色や形のバランスや美しさを考えて表現できる。(創造的な技能)
  4. 他者の作品の工夫に気付き、制作意図を感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

### 指導計画 (全 11 時間)

- 第一次 バッジデザインの鑑賞，課題の理解 1 時間 (本時)
- 第二次 使う目的や用途に応じて構想を練る。 3 時間
- 第三次 色や形のバランスや美しさを考えて表現する。 6 時間
- 第四次 まとめ 1 時間

### 授業について

表現領域におけるデザインの学習は、色や形の構成を工夫することのみに専念しがちである。それは重要な要素ではあるが、デザイン学習本来の目的は、生活を心豊かに創造する能力を育成することにある。つまり、社会や身近な生活に目を向けると同時に今日の社会を考え、これからの時代を創造していく力をデザイン学習を通して身に付けることである。したがって、題材設定にあたっては、日常生活から乖離したものではなく、身近な生活の中にテーマを求める方がより主体的・能動的に取り組むことができると考える。

高等学校に入学後、体育系の部活動に所属している生徒も多く、本題材である県総体のバッジデザインは生徒にとっても身近であり、意欲的に取り組むことが期待できる。

本題材では、身に付けさせたい力に焦点を絞り、それ以外の活動については取捨選択の上、活動内容の絞り込みを行う。そうすることによって生徒たちは焦点化された授業の中で、明確な意図や思いに向けて主体的・能動的に活動することが期待できる。

### 題 目 県総体にふさわしいバッジをデザインしよう

#### 本時の目標

1. バッジデザインに主体的に取り組む。(美術への関心・意欲・態度)
2. 使う目的や用途に応じて構想を練ることができる。(発想や構想の能力)
3. 他者の作品の工夫に気付き、制作意図を感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

#### 本時の評価規準 (観点/方法)

1. バッジデザインに主体的に取り組む。(美術への関心・意欲・態度/ワークシート)
2. 使う目的や用途に応じたデザインができる。(発想や構想の能力/アイデアスケッチ)
3. 作品の工夫に気付き、よさを感じ取ることができる。(鑑賞の能力/ワークシート)

## 本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p><b>課題の理解(10分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題と制作条件を理解し、制作へ意欲を高める。</li> </ul> <p><b>過年度作品の鑑賞(10分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の作品の工夫に気付き、意図を感じ取る。</li> <li>・具体的な観点を意識する。</li> </ul> <p><b>グループ討議(10分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点を整理する。</li> <li>・ポイントをまとめる。</li> </ul> <p><b>全体での共有(10分)</b></p> <p>作品の工夫やよさをあらためて確認する。</p> <p><b>まとめ(5分)</b></p> <p><b>構想を練る(5分)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バッジデザインの諸条件を知る。(ワークシート・参考作品)</li> <li>・参考作品の鑑賞</li> <li>・審査員の視点で作品を評価する。</li> <li>・参考作品に投票する。(シールを付けていく。1人5枚)</li> <li>・ワークシートに記入 どこがどのように工夫されているか。どういう点がよいと思っ たか。</li> <li>・グループで評価項目を整理する。どういう観点で選んだか。 <b>仕上がり</b>—むら無く塗られている、曲線が滑らか等 <b>配色</b>—配色がきれい、彩りが鮮やか、イメージに合っている等 <b>構図</b>—秩序、躍動感、○と○のバランス等 <b>内容</b>—具体的←→抽象的、表している物(人・・・)等</li> <li>・グループごとに評価した観点とともに作品を紹介する。 2～3のグループが発表する。</li> <li>・アイデアスケッチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して制作意欲を高めさせる。</li> <li>・評価の観点 どこがどのようによいか具体的に記入させる。</li> <li>・具体的な鑑賞の視点を意識させる。 細かい点にまで目を向けさせるための例示を行う。(塗り方など、技術面も)「はみ出てない」「縁取りの線の幅が均一」など</li> <li>・配色がきれいとは、どうだからきれいに感じたのか。</li> <li>・イメージに合っているとはどういうことか。</li> <li>・具体的な言葉で整理させる。</li> <li>・重要なポイントをまとめる。 アイデア・仕上がり</li> </ul>
<p><b>準備物</b></p> <p>参考作品、ワークシート、シール、電子黒板、書画カメラ、大型テレビ</p>		

# 県総体のバッジデザイン

## 1. バッジデザイン募集の趣旨

第71回広島県高等学校総合体育大会(2018)を広島県高校生の体育の祭典にふさわしい大会として成功させるとともに、開催の趣旨を広く周知するため。

## 2. バッジの用途

大会関係者に配付するとともに希望者に販売する。

## 3. バッジデザインの条件

- (1)デザインは自由だが、極端に複雑なものや危険性(角が尖っているなど)は不可。
- (2)大会記念バッジなので種目が特定されたり数種目のみ想定されるものは不可。
- (3)図案中に高体連マークを1つ入れること。(上下に注意)
- (4)図案の大きさは、B5ケント紙の中央12cm×12cmの枠内に収めること。
- (5)色数は高体連マークの赤を含めて3色以内、白色も塗る。
- (6)色と色の境は、金属色(金または銀色)のふちどりをする。(金または銀色は色数に含めない。)
- (7)用紙裏面にデザインの意味を300字以内で記入する。

## 4. 過年度作品の評価—審査員なかつつもりで(10分)

作品番号	よい点・気づき・感想・工夫してある点
	----- ----- -----
	----- ----- -----

## 5. 私たちのグループの検討作品(10分)

作品番号	
------	--

よい点・気づき・感想・工夫してある点
----- ----- ----- ----- -----
作者の意図・ねらい
----- ----- -----

## メモ(バッジデザインのポイント)

自分の作品の方向性, 取り入れたい点, イメージなど
----------------------------

## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

この授業は、昨年度の本校からの応募作品をもとにバッジデザインについて考える授業である。本来なら2時間連続であるが、研究授業ということで1時間の設定のため鑑賞の時間やグループ発表の時間を確保するため、バッジデザイン制作上の条件説明は前時に行っている。また、本授業において培ったデザイン上の観点を強く意識した状態でアイデアスケッチに入らせたいため、最後の5分はアイデアスケッチの時間にした。本来であれば2時間続きの後半を当てる。

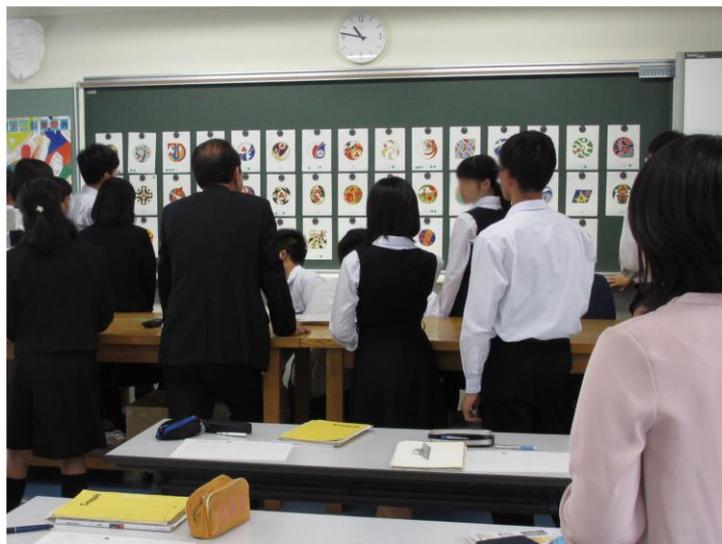


図1 過年度作品にシールを貼り投票

### 2. 研究協議より

- ・生徒1人1人が審査員という意識で過年度作品に向き合うという設定なので、単に鑑賞の授業ということではなく真剣さが増していた。
- ・授業を参観した感想として、生徒はグループ討議において、個々の意見を明確にして意見交換をすることや、それらを整理して発表するといった能動的な活動を自然に、かつスムーズに行っていた。日頃から学校全体として、それぞれの教科学習でアクティブラーニングに取り組まれている結果であると推察した。
- ・生徒たちが広い視点で鑑賞をし、グループの話し合いでどんどん深まっていく様子があちこちで見受けられた。単調な言葉や同じような意見になってしまうことがあるが、それを防ぐためには？  
→ただ色がきれいというだけでなく、「どういう色だから（補色？同系色？寒色？）なぜ、どのように」等、具体的に述べるよう指導している。
- ・生徒の投票後、上位の作品について取り上げたが、票が集まらなかった作品から学ぶということもあるのではないかと。  
→過年度作品といえども、ここがよくないからという指導は鑑賞活動に馴染まないもので、今回はよい所に気付かせることに焦点を当てた。こうすればよくなったと紹介することはしても良いと思う。
- ・最後に生徒たちに見せた、歴代の採用バッジ一覧は、小さすぎて見えないな…と思った。しかし、最後の空欄を指さして「この部分に君たちのが入るんだよ」と一言！なるほど！！と思った。どの生徒も、「自分の作品が入ったらいいな」と憧れを持ったと思う。このような様々な工夫や声かけが必要と感じた。
- ・今回の授業はこれまでの授業形態にとらわれずとあるが、どういうことか。  
→多くの場合、目指す色を作るために混色に力を入れたり、高体連のマークを描くことにエネルギーを費やしてしまう。混色で苦勞しなくていいように使える絵の具の色数を増やしたり（60色）、高体連マークも幾つかのサイズの清刷りを用意して使いたいサイズのものを使わせる。作図もテンプレートや自在定規を使わせる…。いわば楽をさせるわけだが、不要な労力は制作意欲をそいだりもする。それを防ぎ、効率よく自分の思いを達成できる環境をつくるという意味である。